130 朝日新聞

LEADERS AS READER
リーダーたちの本棚 VOL.3

企画・制作 朝日新聞社広告局 広告特集

読書が教えてくれたのは、人を描くことの大切さ

映画『真夏のオリオン』プロデューサー

小滝祥平さん

こたき　しょうへい

「映画製作はひとりのリーダーがひっぱるというより、全員の力が結集して成功するものです。自分の仕事は、みんなに同じ夢を見てもらうことでしょうか」。第2次大戦末期の沖縄南東海域、米軍の本土上陸を阻止すべく悲壮な決意と未来への希望を乗せて出航した潜水艦イ―77の戦いを描いた映画『真夏のオリオン』が、6月13日に全国東宝系で公開される。プロデューサーの小滝祥平氏に、我が読書体験をうかがった。

READING 物語のすべてがある『海坂藩大全』

映画プロデューサーというと、映画にする原作を探すために本を読んでいるイメージがあるかもしれませんが、僕の場合それはまったくありません。ただ、本を読んでいてこれは映画にしたいなと思う時はありますね。壮大なドラマでなくても、たった一言の台詞(せりふ)に「これは生身の人間が映像の中で言葉にしたほうが、より深く思いが伝わるんじゃないか」と、心↖↙を動かされることもあります。

子供の頃に読んだ本で特に印象に残っているのは、ヘルマン・ヘッセの『車輪の下』です。最初の出会いは小学校の教科書に載っていた抄訳だったと思いますが、牧師の息子である主人公が、恵まれた境遇で育ったことに無自覚だった自分を恥じるエピソードに強く引きつけられました。エリートとはほど遠い境遇だった自分がいうのはお恥ずかしいのですが、人間として何を恥と思うかという自分の原点になった作品です。

映画の道に進もうと思ったのはずっと後の話ですが、別役実さんが大人のための童話集として書かれた『淋しいおさかな』は、自分の感性に大きな影響を与えてくれた本です。どの話にも人間の心の奥底にある怖さやおかしみが入り交じっていて、なんともいえない読後感があります。エンターテインメントでも文芸作品でも、「人」がしっかり描かれていなければ面白くはならない。そのことを教えてくれた大切な本です。

潔い生き方に心洗われる 藤沢作品の「横丁の武士道」

映画製作をめざす人に読んでほしい本をひとつ挙げるなら、藤沢周平さんの『海坂藩大全』です。藤沢さんの短編は名作揃(ぞろ)いですが、二十一編からなるこの作品集はまさに珠玉です。よく「すべての物語の主人公がシェークスピアにある」といわれますが、内容の多彩さと奥深さでは負けていないと勝手に思っています。

主人公たちは必ず間違いをおかすのですが、その行動は愛(いと)しくて愚かしくて、そして潔い。大仰さのない横丁の武士道といいますか、背筋を伸ばして自分の運命は静かに受け入れている姿に惚(ほ)れ惚(ほ)れとしてしまいます。僭越(せんえつ)を承知でいえば、武士という型にはめず、一人ひとりを血の通った人間として描く藤沢さんの姿勢を、自分も見習おうと思っています。

『真夏のオリオン』は、米軍の本土上陸を防ぐために出撃した日本の潜水艦と、それを追い詰めるアメリカの駆逐艦との戦いを軸にした物語です。過酷な戦況下でも、両艦の艦長は互いに敬意を表した武士道的な戦いを繰り広げます。

戦争があってはならないのはいうまでもないことですが、部下を思い、国の未来を思いながら使命を果そうとした人たちがどちらの国にもいたことを描きたい。僕がそう思った理由のひとつに、学生時代の夢が外交官だったことがあるかもしれません。五木寛之さんの『さらばモスクワ愚連隊』や北杜夫さんの『どくとるマンボウ航海記』のような旅をテーマにしたエッセーが大好きで、さすがに外交官は無理だと分かっても、英語を使う仕事に就きたいと思っていたのです。

世界の異なる文化を知り言葉を超えて認め合えたら

世界にはさまざまな文化や考え方があります。その違いが、言葉と密接に関係していることを分かりやすく教えてくれた本が、鈴木孝夫さんの『ことばと文化』でした。例えば日本人はごはん（主食）とおかずを一緒に食べますが、ヨーロッパではワンプレートずつ順番に出されます。私たちは洋食を食べる時、ごはんをお皿の上に乗せて「ライス」という言葉に置き換えますが、食べ方はメーンディッシュをおかずに見立てた日本流の文化を変えません。しかし違いを知るというのは、認め合うことに通じるでしょう。

『真夏のオリオン』では、「回天」という、乗り込む者も死へと導く特攻兵器に対してさまざまな思いが交錯します。追いつめられた日本が最後の望みを託そうとしたその作戦も、アメリカ軍には理解を超えたものです。しかしこの映画では、「回天」が未来への活路を開く驚天動地の使われ方をします。どんなものであるかは、ぜひご覧になっていただきたいと思います。（談）

LEADING 準備に完璧(かんぺき)はない。だからリスクを最小に

「映画プロデューサーは潜水艦の艦長でも、ましてや連合艦隊の司令長官でもありません。少なくとも自分の場合は、雑役係。ただ、この映画は面白いという思いを、誰よりも強くもっていなければ、人は力を貸してくれません」

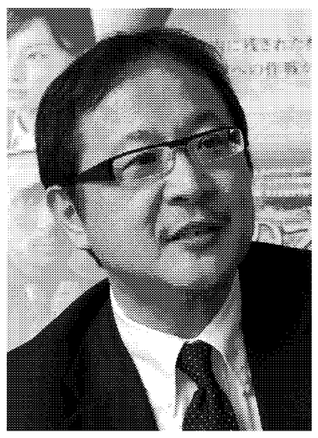
これまで30本以上の映画製作にかかわった小滝氏。「若い頃は映画青年ではまったくなく、外の世界にばかり目が向いていました。それがよかったのかも」。さまざまな協力者がひとつの作品に夢を託し、完成にこぎ着けるまで何が起きてもおかしくない映画ビジネス。全体のマネジメント役として参考になったのは、型破りの化学者・技術者として知られ、第1次南極観測隊の越冬隊長を務めた西堀栄三郎氏のエッセー集『石橋を叩けば渡れない』だという。

やり続けることでいい出会いがある

本書の中で西堀氏は、「冒険家というのはやるやらないを調査するのではなく、必ずやると先に決めてから、そのためにはどうすればリスクを減らせるかを考える」と説いている。それは映画作りにも必要な情熱だと小滝氏は言う。

「物事の準備に完璧はなく、必ずリスクがあります。それを承知なら、不測の事態もあわてず、臨機応変に対処できることを学びました。おかげで今まで大きなトラブルもなく、恵まれた現場だったと思っています」

小滝氏は、夢を持ち続けることと同時に、やり続けることの大切さも、西堀氏の著書から学んだ。



こたき・しょうへい　1957年生まれ。北海道旭川市出身。上智大学外国語学部英語学科卒業後、ポニーキャニオンを経て、89年、映画製作会社・株式会社デスティニーを設立。『ホワイトアウト』(00)、『亡国のイージス』(05)、『地下鉄に乗って』(06)、『ミッドナイトイーグル』(07) などの大作映画を世に送り出す一方で、『はつ恋』(00)、『ココニイルコト』(01)、『深呼吸の必要』(04)、『幸福な食卓』(07)、『青い鳥』(08)、『山桜』(08) など、日常を切り取ったささやかなテーマの作品を多数製作。

「戦争を知らない世代にも作品のメッセージが届くように、原作の世界と現代を結びつけるアイデアを欲していました。それがどうしても思い浮かばなくて、『亡国のイージス』の映画化の際にお付き合いができた福井晴敏さんに監修と脚色をお願いしました」

周囲の意見を聞く仕事だが、キャスティングだけは他人に譲らない。

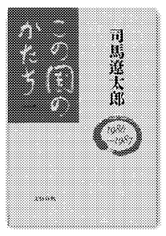
「こんな面白い仕事はありません。倉本艦長を演じてくださった玉木宏さんをはじめ、最初のイメージ通りの配役になりました」

聞き手／広告局営業部長（映画担当）宮澤 稔　構成／松身 茂　撮影 星野 章

小滝祥平さんがすすめる5冊

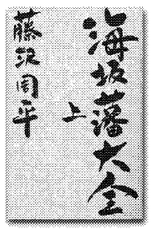
『真夏のオリオン』（小学館文庫）
福井晴敏・監修　飯田健三郎・著

64年の時を超えてアメリカから届いた一枚の楽譜に、秘められたドラマがよみがえる……。「映画では伝えきれなかった様々な人間たちの思いも克明に描かれていて、ノベライズの枠を越えた感動があります」



『この国のかたち』（文藝春秋）
司馬遼太郎・著

1986年から96年まで、文藝春秋に巻頭随筆として連載された司馬遼太郎のエッセー集。「司馬さんは日本の長所と短所を冷静に見つめながら、この国の有り様と国民性を書き続けました。その集大成だと思います」

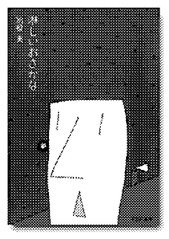


『海坂藩大全』（文藝春秋）
藤沢周平・著

藤沢周平の数々の名作の舞台となった架空の美しい藩、海坂藩を舞台にした短編を上下巻に収録。「収録作の『山桜』を映画化した際には、自分などが本当に藤沢作品を手がけていいのかとずいぶん思い悩みました」

『石橋を叩けば渡れない』
（生産性出版）西堀栄三郎・著

南極越冬、チョモランマ登山など、未知の世界を切り拓(ひら)くことに情熱をかけた西堀氏の、人間味あふれる体験談。「物事には必ず最初がある、それをやらなかったら二度目はない」という精神に小滝氏は共鳴した。



『淋しいおさかな』（PHP文庫）
別役 実・著

劇作家・別役実が書き下ろした童話集。「さみしい」と涙を流すおさかなの夢を見た少女は、さみしさの意味を知りたくて、おさかなを探す旅に出る。長い旅の果て、おさかなと出会えなかった少女はさみしさを知る……。

FU SO SHA 扶桑社
お問い合わせ先●扶桑社・販売グループ
☎03-5403-8859(月～金10:00～17:00)
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
www.fusosha.co.jp ●定価は税込です。

この表紙の写真が大好きです。こんなに笑っている自分の写真ってあまりないから…。
Miwa Asao ...memories
浅尾美和 フォト&エッセイ
大好評発売中!!
素顔の浅尾美和がここにいる! 写真で振り返る足跡とエッセイで綴る今の心境　浅尾美和著　撮影 浦川一憲　■定価1,995円

俳句の真髄に迫る一冊。これで俳句がわかる、作れる!
角川春樹 句会手帖
佐藤和歌子 著
■定価1,680円
「北方! お前は黙ってろ!」（角川春樹）
天才俳人・角川春樹を宗匠に、北方謙三、茂木健一郎、仲畑貴志、菊地成孔各氏ほかの豪華ゲストを迎えて催された句会を、気鋭の作家・佐藤和歌子がレポート

デイトレ～1週間スイングでコンスタントに勝ち続ける方法
待望の続編刊行!
FX 短期売買の教科書 練習問題付き
最近もっとも注目のデイトレからスイングトレードまで、FXの短期売買に焦点をあて、オールカラーで解説する!
松田 哲著 ■定価1,575円　トレンドラインの引き方、日足・1時間足チャート分析etc. 超実践的FXの短期戦略を徹底指南!
この本1冊でFX短期売買のすべてがわかる!
超円高でもガッポリ稼げる! 本当に勝ちたい人のための
大反響続々重版!
FXの教科書
為替相場に必須のドル／円売り売買戦略を解説
松田 哲著 ■定価1,575円
現在の超円高を誰よりも早く予想したカリスマ為替ディーラー 松田 哲 入魂のFXシリーズ!

家族がいてもいなくても
いずれはみ～んなおひとりさま
久田 恵著
30代後半から両親の介護に追われ、子育てに奮戦し、長い間「お出掛け不自由な女」だったと自らを振り返る著者が、人生後半の生きざま、女心をたおやかに描いた傑作エッセイ!　発行 産経新聞社　■定価1,365円

インテリジェンス
人生相談
佐藤 優著
超実践的アドバイスが満載!
「赤：個人編」と「黒：社会編」の2冊が同時刊行
こんな人生相談、今までなかった! 不確実な時代を生き抜くためのバイブル!
[個人編] 性愛・家庭・思想・学習
[社会編] 貧困・国家・処世・未来
100人の悩みに答える!
週刊SPA!の巻末連載に、読者との電話相談を収録。
■定価各1,050円

理科食堂の空想
澤口知之（料理人）
リリー・フランキー（作家）
稀代の作り手・シェフ澤口知之とリリー・フランキーのゴージャスで魅惑的な大人の料理エッセイ
料理専門誌『料理王国』人気連載、待望の書籍化。　■定価1,890円